

科目名	アンチエイジングと終末期医療			ナンバリング	CLI185	授業形態	講義
対象学年	4	開講時期	後期集中	科目分類	選択	単位数	1単位
代表教員	蘆野吉和	担当教員					

授業の概要	<p>老いをどう生きるか、人生の最終段階をどこでどのように暮らしていくか、人生の最終段階においてどのような医療を受けたいのか受けたくないのか、等はこの地域社会の重要な課題である。今回の講義は、サクセスフル・エイジングを可能とする、人生の最終段階を支える体制、あたらしい地域社会のあり方について、医療および介護の視点から学ぶことを目的とする。</p> <p>講義では、緩和ケアの理念とその発展の歴史的背景および現在実践されている緩和ケアの世界的潮流について解説し、緩和ケアの実践に必要な項目（コミュニケーション技能、苦悩の全人的評価、痛みを含めた症状緩和治療、心理社会的ケア、グリーフケアを含む家族ケア、多職種協働、スピリチュアルケア、倫理的問題、ACP等）、地域緩和ケアとしての在宅ホスピスケアの概要、および、この地域緩和ケアシステム構築が中核となっている地域包括ケアシステムの概要と具体的内容（地域医療構想、地域支援事業としての医療介護連携事業等）について解説する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 人は死ぬ存在であることを再認識する。 現在多くの人が事前に予期できる人生の最終段階と死を迎えている事実を認識できる。 人生の最終段階は「終末期」ではなく、人生の完成期であることを理解できる。 病院ではなく地域で穏やかに暮らすことができるための「支える医療」が必要となっていることを認識できる。 緩和ケアは生命を脅かす疾患および生命予後の限定された人およびその家族に対し、診断の早期から提供されるべきケアであることを理解できる。 地域における緩和ケアの実践に必要な資質（コミュニケーション力、苦悩の全人的評価、症状緩和治療、家族ケア、スピリチュアルケア、倫理的側面、多職種協働等）に関する資質の概要を説明することができる。 地域包括ケアシステムの概要を説明することができる。 緩和ケアおよび地域包括ケアにおいて、薬剤師が重要な役割を担っていることを理解し、その具体的内容を説明することができる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<p>この領域(分野)は、現在、世界においても日本においても、大きな変化(発展)が認められる領域であり、講義では、時代の変化により影響されない基本的項目と、先端的な項目を提示することとしている。基本的な項目としては、「緩和ケア」「ホスピスケア」に関わる項目であり、このkey wordで検索することで学習は可能である。先端的な項目では「地域包括ケア」を検索することで参考となる課題について学習することが可能である。</p>
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。
	○ 2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。
	○ 3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。
	○ 5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
到達目標記載の内容の達成レベルを一部しか達成できていない(全内容の6割程度。4割程度は達成が不十分な内容がある)。もしくは、到達目標記載の内容の各達成レベルで、それぞれ6割程度の達成レベルにある場合。	到達目標記載の内容をすべて説明できる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○					50%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		○	○				50%
出席							加点はしない。欠席は減点となる。

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 集中講義の最終(最終日)に筆記試験を行う。 試験終了後に解答例を示し、必ず振り返りを実施する。講義の中で、課題を提示し2～3人でディスカッションを行い、それを発表する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	人生(いのち)の軌跡とサクセスフル(アクティブ)・エイジング、人生の最終段階における医療・ケア	人は必ず死を迎え、人生の最終段階には多くの辛さがあることを情緒的に理解し、その辛さをできる限り緩和するためには何が必要かについて、ワークショップ形式で学習する	
	第2回	地域緩和ケアとは(緩和ケア総論)	緩和ケアは人生の最終段階の多面的な辛さを緩和するためのケアであることを、その歴史的背景、基本となる理念、そして、世界的な緩和ケアの潮流および今後の地域社会に必要な地域緩和ケアの概念について学習する	
	第3回	コミュニケーションの必要性・重要性	何故緩和ケアにおいてコミュニケーションが重要なのか、コミュニケーションが良好なことで得られることは何か、緩和ケアに必要なコミュニケーションスキルとは何か等をワークショップ形式で学習する	
	第4回	生命を脅かす病気、生命予後の限定された人およびその家族のもつ辛さの全人的(包括的)評価	緩和ケアは患者および家族のニーズに沿って提供されるものである。このため、患者および家族の辛さを多面的な視点で評価し、かつ、ニーズを把握することの重要性についてワークショップ形式で学習する。	
	第5回	身体的苦痛に対するケア(症状緩和治療1: 痛み治療のための基本的知識)	がん疾患の緩和ケアにおいては症状緩和治療およびケアは必要不可欠な技能である。その中でも痛み治療は中核的な治療であり、この講義では痛み治療のための基本的知識と技能を学習する。	
	第6回	身体的苦痛に対するケア(症状緩和治療2: 痛み治療の実践、全身症状・消化器症状・呼吸器症状)	第5回目の講義に続けて、この講義ではさらに詳しい痛み治療の知識や技能を学習する。	
	第7回	症状緩和治療3(全身症状/消化器症状/呼吸器症状)	進行したがんや慢性疾患では、痛み以外に多くの症状への対応が必要である。この講義では、発生頻度の多い全身倦怠感、食欲不振、呼吸困難等についての対応方法(知識および技能)について学習する	
	第8回	心理社会的苦痛への対応	患者や家族の抱える心理社会的苦痛を評価し、ニーズに沿った心理的ケアおよび社会的ケアの実践も緩和ケアにおいて必要不可欠なものである。この講義では模擬事例によるワークショップ形式の学習を行う。	
	第9回	スピリチュアルな苦痛への対応	人生の最終段階においてはスピリチュアリティに関係する辛さが出現する。この辛さへの対応も、緩和ケアにおいては重要なケアである。この講義ではスピリチュアリティの概念と具体的ケアの内容について学習する。	
	第10回	チームケア(多職種協働)/地域緩和ケアにおける薬剤師の役割	緩和ケアはチームケアである。このチームケアを円滑に行うための要点について学習するとともに、チームにおける薬剤師の役割について学習する。	
	第11回	家族のケア(臨終期のケア・グリーフケア)	緩和ケアにおいては家族はケア提供者であると同時にケアを受ける対象者である。この家族ケアの重要性について、具体的ケアの内容(臨終期のケア、看取りのケア、グリーフケア等)について学習する。	
	第12回	地域緩和ケアにおける倫理的側面	臨床現場における治療やケアにおいて、個人の生命や人生および尊厳にかかわる決定を本人や家族が決定しなければならない場面も少なくない。その決定に際しての支援の在り方についてワークショップ形式で学習する。	
	第13回	人生会議	他人ごとではなく自分事として健康な時から人生の最終段階における医療について考えておくこと(アドバンスケアプランニング)が今必要とされている。この講義においてはその概念について学習する。	
	第14回	在宅緩和ケア(在宅ホスピスケア)の現場	この講義では、映像を通して地域緩和ケアの現場を疑似体験し、現在、全国で展開されている看取りを伴う在宅医療の姿を学習する。	
	第15回	地域包括ケアシステム/地域共生社会とは	日本において現在着々と構築が進められている地域包括ケアシステムの中核となる取り組みは看取りを念頭にいた在宅医療の普及である。この講義では、システム全体の概要を含めて学習する。	
	試験	1、集中講義の最終(最終日)に筆記試験を行う。 2、試験終了後に解答例を示し、必ず振り返りを実施する。講義の中で、課題を提示し2～3人でディスカッションを行い、それを発表する。		
授業の進め方	半分以上の講義において2～4人程度の小グループでのワークショップを行う。また、できるだけ映像を用いてわかりやすい講義を行う予定である。			
授業外学習の指示	90分程度を目安として、事前課題に取り組み、意見をまとめて講義に望むこと。講義終了後は、90分を目安として、2～3人でディスカッションを行い、相互理解を深めること。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)			

教科書	プリントを配布する。
参考書	Textbook of Palliative Medicine and Supportive Care, Second Edition - CRC Press Book. 2016 ISBN 9781498772839、トワイクロス先生の がん患者の症状マネジメント 医学書院; 第2版 (2010/9/1) ISBN-13: 978-4260010733、真実を伝える診断と治療社 ISBN-10 : 4787803700; ISBN-13: 978-4787803702
参考URLなど	
その他	